

【学園研 B】

1. 研究課題名

「欧州の団地再生に関する研究」

2. 研究代表者名

所属学部： 生活科学部 職名 教授 氏名 村上 心

3. 研究分担者

所 属 : 職名 氏名

所 属 : 職名 氏名

所 属 : 職名 氏名

4. 研究成果の概要 (1, 200字程度で記入。ただし、図・グラフは使わないこと)

第2次世界大戦後のマスハウジング期に建設された住宅団地は、現在、先進各国は、住民の高齢化、建物の老朽化、生活環境の悪化などの問題を抱えているが、国家・自治体の財政悪化のため、公的資金の投入による改良は不可能である。我が国において、特にこの問題は深刻で、従来の「常識」では建替え時期を迎えている住宅団地を、スラム化から救う方策は、未だ確立されていない。例えば、独では、特に旧東ドイツ圏の団地再生が大きな問題となり様々な取り組みが行われている。仏は、公的運営の枠組での地区別の環境改良を行っている。このような団地再生のあり方を模索している各国の状況を把握した上で、わが国の既存の住宅ストックの活用・再生方法を検討することは、喫緊の課題である。本研究は、住宅団地ストック改良の取り組みを先進的に行っている欧州(独、仏など)を対象として、①第2次世界大戦後の住宅政策と供給状況を概括した上で、②住宅団地の再生への取り組みの抽出を行い、③我が国の住宅団地の再生の方向性を示唆することを目的としている。本研究の成果は、下記の通りである。

- ① 住宅団地の類型 (文献調査) : 諸国の公的機関が発表しているオープンデータの収集を行い、住宅団地の中心的ボリュームを形成する公的住宅ストックの形成時期、量、床面積・室数などの質的要素を抽出した。
- ② 住政策の把握 (文献調査) : 英国、オランダ、デンマーク、フランスを中心とした欧州諸国の住宅政策の歴史的変遷を把握した。
- ③ 住宅団地の事例調査 (文献調査・実地調査・インタビュー調査) : (本項目は、3月6日～15日に実施予定である。:2月末日以降での実施については、学長先生他の承認済) 研究対象国(オランダ、デンマーク)の住宅団地に対して事例分析を行なう。調査内容は以下の通りである。資料収集内容として、「居住形態」「周辺環境」「職場と職業」「運営組織」に着目して調査を行なう。また、インタビュー調査として、管理主体、再生主体を対象に、取り組みの内容、資金調達手法、費用対効果などに着目して調査を行なう。調査予定先は、オランダ (Modern architecture in Amsterdam,- WoZoCo MVRDV- Silodam-Eastern docklands- IJburg, Delft - Voorburg- Rotterdam- Bouwplaats, Meeting professionals in Amsterdam:- Gespleten Hendrik; De Jager en Lette arch.- Het Oosten- Ams ZO- Complex 54)、デンマーク (屋上住宅 Velux,ヒデビュウゲーデエコ再開発, シャロッテの庭, 建築センター, 建築家協会概要等の説明, 住宅インフィール, DR コンサートホール, チタン学生寮, ジェミニレジデンス, VM レジデンス, BIG アトリエ訪問, Bispebjerg Bakke, アーティスト設計の集合住宅, マルメ・ターニングトルソ, TangoEco.Husing,Expo. Bo.01) である。